

平成27年 第4回定例会 補正予算特別委員会質疑（平成27年12月3日）

◆北山委員 ちとせの未来を創る会、北山です。

早速、通告に従って質疑をさせていただきますので、簡潔、明瞭な御答弁を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

まず、大項目の1点目、歳入の部、18款1項1目の寄附金についてお伺いをいたします。

今定例会で示された補正予算書では、第3回定例会以降に受けた寄附金296万3,000円を5つの基金に振り分けておりますけれども、これらの費目に、それぞれの金額を置いた根拠について、まずお伺いをいたします。

◎千葉企画部長 お答えいたします。

市民の皆様、また、市外の方々からいただきました貴重な寄附金につきましては、寄附者の御意向を十分に尊重して、その御意向に沿って基金に積み立てて活用することにしております。

寄附金を積み立てる基金といたしましては、心のふるさと千歳基金、地域福祉振興基金、奨学基金、みんなで、ひと・まちづくり基金、ふるさと千歳国際交流基金、農業振興基金の6つの基金があります。

今回、補正予算に計上しております296万3,000円につきましては、寄

附者の意向に沿って、6つの基金のうち、ふるさと千歳国際交流基金を除く5つの基金に積み立てているものであります。

以上であります。

◆北山委員 一昨日の議案説明の中で、今回、補正した寄附金収入の中に、いわゆるふるさと納税に該当する金額が含まれているとのことでありましたが、その金額と歳出費目別の内訳について、改めてお示しをいただけますでしょうか。

◎千葉企画部長 お答えいたします。

今回、補正しております寄附金のうち、ふるさと納税に該当する寄附金額は31万円となっております。

寄附金の積み立て先、いわゆる、基金の内訳といたしましては、総務費の心のふるさと千歳基金に4万円を、民生費の地域福祉振興基金に3万円を、農林水産費の農業振興基金に1万円を、教育費の奨学基金に23万円をそれぞれ積み立てているところでございます。

以上であります。

◆北山委員 当市のふるさと納税の寄附申込書では、寄附金の使い道を指定することができるようになっていると思いますけれども、使い道を書いてくる附者の割合というのは、おおむね、どのぐらいか、おわかりになれば教えてくださいたいと思います。

◎千葉企画部長 お答えいたします。

ふるさと納税で用途を指定した割合についてであります。今年度につきまして、今回、補正予算の対象とした時点までに寄附をいただいた、ふるさと納税の件数は94件であります。

このうち、用途を指定されたものは60件であり、割合につきましては6割程度となっております。

以上であります。

◆北山委員 ありがとうございます。

ふるさと納税に関しては、一般的にお聞きしているところでは、寄附金額のうち、自己負担の2,000円を差し引いた残りが、所得税と住民税から寄附金特別控除として、全額差し引かれる仕組みというふうに伺っております。つまり、千歳市民が他市町村に同様の寄附を行った場合には、次年度の市民税収入は、応分、減ることになると思いますが、寄附金の受領額と市民税の控除額との収支差が気になってくるところであります。

そこで、お尋ねしますけれども、平成27年度課税分の寄附金特別控除額、それから、同期間のふるさと納税にかかわる寄附金の歳入額と件数を、それぞれ教えていただけますでしょうか。

◎千葉企画部長 お答えいたします。

当市の個人市民税の納税義務者が、平成26年1月1日から同年の12月31日までの間に他の自治体に寄附したことにより、平成27年度分の市民税所得割額から控除された寄附金の特例控除額の件数と金額につきましては、228件の351万770円となっております。

一方、同じ時期に当市が受けたふるさと納税の件数と金額につきましては、17件の80万円となっております。

なお、当市は、本年4月から、1件1万円以上のふるさと納税をいただいた方に対して、地元特産品の贈呈を開始したこともあり、先ほど申しあげましたように、年度途中でありますが、今年度につきまして、今回、補正予算の対象とした時点までに寄附をいただいた件数と金額は、94件の687万円となっております。

以上であります。

◆北山委員 ありがとうございます。

ただいまの答弁の中で、昨年の実績で見ますと、当市が寄附を受けた金額よりも、他の市町村に寄附を行って税控除を受けた千歳市民のほうが大幅に上回っているというふうに解釈できるお話ですけれども、昨今、テレビなど、あらゆるメディアがふるさと納税のことを取り上げておりまして、やらなければ損だとかばかりに関心をあおっているところであります。

私も、今回の質疑に際して、ふるさと納税に関する本は、どれくらいあるのかとインターネットで調べてみましたら、ちょっと検索しただけでも、ざっと100冊以上の、いわゆる指南本といますか、ハウツー本が出ております。それらの背景も考えますと、今後、千歳市民のふるさと納税に対する関心というの、ますます高まってくるのではないかなというふうに考えるところです。

それで、寄附者にお礼として還元するギフトを千歳市でも用意しておりますけれども、この原価を50%と仮定したとしても、諸経費を含めると、市民税の控除額の2倍以上の費用がかかるということで、さらに多くの寄附を募っていかなければ、収支バランスがとれないというふうに推察するわけです。

今後、歳入欠陥を防止して、必要となる税財源を確保していくという観点から、千歳市として、どのようにふるさと納税に取り組んでいく予定であるのか、その点をお示しいただければと思います。

◎千葉企画部長 お答えいたします。

ふるさと納税の考え方になるかと思いますが、ふるさと納税につきましては、税財源の確保の観点という考え方もありますが、本来は、広く市外の方々に当市について知ってもらい、興味や関心を持っていただくということのきっかけづくりと思っております。

加えて、先ほども御説明しましたが、今年度から、1万円以上の寄附者に実施

しております市内立地企業の製造食品や農産物の詰め合わせを特典として贈呈することにより、地域経済の活性化や地場産業の育成などを目的として、当市では行っているところでございます。

今後におきましても、この目的を踏まえながら、新たな特典の導入も検討するなど、町全体のPRや活性化をさらに図れるよう、内容を工夫するなど、交流人口の拡大につながる取り組みを行いながら、ふるさと納税の推進に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

◆北山委員 ありがとうございます。

今、千歳の特産品などを生かしたギフトを用いて、当市に関心を持っていただくきっかけづくりに取り組んでおられるというお話がございました。

このギフトにつきましては、私もホームページ等で見させていただきましたけれども、現在11種類で、非常に魅力的で豊富な地元特産品のセットを御用意されているということで、本当に魅力的だなと感ずるわけです。逆に言えば、現在のところ、11種類全てに食べ物を御用意されているということで、正直、他の自治体のギフトなどを見ても、地域特産品というものが非常に多いことから、そういう意味では、今後、バッティングしてくる部分が多いのかなというふうに感じております。

これから、ふるさと納税への関心が非常に高まってくるという点から考えますと、広く国民の耳目を引くためにも、千歳市として、他の自治体には、まねのできないようなギフトを工夫すべきではないかなというふうに考えるところで

す。

一つの例ですけれども、千歳市であれば、空港がございますので、新千歳空港を離発着する路線のクーポン券とか、あるいは航空会社のマイレージで還元するとか、そういう方法も考え得るのかなと思います。

今、私が申し上げたのは、あくまでも一例ということで、ほかにも手段がいろいろあると思いますし、当然、お返しをもって終わりということではなくて、先ほど千葉部長もおっしゃっていましたが、千歳市に関心を持っていただく、あるいは、観光を目的として当市を訪れていただくというような戦略を、ぜひ持っていて、ふるさと納税の寄附金拡充に向けたさらなる取り組みを期待するところでございますが、その点について、最後に1点だけお伺いをしたいと思います。

◎千葉企画部長 お答えいたします。

今回、ホームページで見ていただいた特典の11品につきましては、これまで5品ということでしたが、11月から見直しをして、寄附者にとってメリットが高く感じられるような形で工夫をして、改めて、これだけの数にして、つくり

直したところでございます。

ただ、ふるさと納税について、納税額のことだけをもって、華美に景品をやるということは、現在、本市としては考えておりません。先ほど言いましたように、本市の町を知ってもらい、本市のまちづくりに対する応援団というふうに理解いただいて、そして、千歳市に来てもらうというような観点を含めまして、ふるさと納税の拡大、推進については、さらに検討してまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

◆北山委員 ぜひ、今後とも、その拡充について、鋭意取り組んでいただければというふうに感じますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、次に移ります。

次に、大項目の2点目、保健衛生費の休日夜間急病センター整備事業についてお伺いをいたします。

まず、今般、繰越明許として計上した1,550万8,000円の概要についてでございますけれども、この金額を繰り越した理由とその内容についてお伺いをしたいというふうに思います。

◎原保健福祉部長 お答え申し上げます。

休日夜間急病センター整備事業につきましては、財源として、防衛省の調整交

付金を活用することとしております。

本年7月に防衛省と協議を行った結果、本年9月から基本設計に着手をいたしまして、来年1月に完了、その後、直ちに実施設計に着手しまして、来年7月ごろに完了する予定となり、実施設計が平成27年度と28年度の2カ年にまたがりますることから、本年度の当初予算に計上いたしました事業費のうち、実施設計に係る委託料1,550万8,000円を翌年度に繰り越すものであります。

以上であります。

◆北山委員 この事業を繰り越すことで、平成29年の秋に開設という事業のスケジュール自体に何らかの影響というのはありますでしょうか。

◎原保健福祉部長 休日夜間急病センターにつきましては、市民待望の施設でありまして、早期の実現が求められることから、設計開始から工事の完了まで、切れ目なく実施することを考えておりまして、平成29年秋のセンター開設には影響を及ぼさないものと考えております。

以上であります。

◆北山委員 ありがとうございます。

今、原部長のほうからも御答弁がありましたけれども、一昨日、山口市長の行政報告の中で、来年1月にも施設の基本設計が固まるというお話でございました。

ですので、この際、お尋ねをするわけですが、現在、ホームページ等で医師の募集を行っていると思いますけれども、ドクターや看護師など、必要となるスタッフの確保については、現在のところ、どの程度、進捗しているのかという点をお示しいただきたいと思います。

◎原保健福祉部長 まず、休日夜間急病センターのスタッフ体制ではありますが、医師のほか、看護師、薬剤師、放射線技師などの配置を検討しているところでもあります。

看護師につきましては、北海道看護協会が北海道ナースセンターを開設しておりまして、ナースバンクとして、看護職の求人、求職のあっせんを行っておりますことから、その活用について検討しております。

また、薬剤師につきましても、北海道薬剤師会が北海道薬剤師バンクを開設しておりますことから、その活用について検討をしております。

このほか、休日夜間急病センター準備委員会におきましても、医療スタッフ等の募集について、引き続き検討をすることとしております。

以上であります。

◆北山委員 今のところは、ナースバンク、薬剤師バンク等を利用して、今後、募っていくということかと思いますが、急病センターは夜間に診療対応をするということを考えますと、医師とか看護師は、比較的体力のある若い方が本来は

望ましいのかなと考えるところです。

今の医師不足の中で、非常に厳しいとは存じますけれども、その辺のスタッフの採用に際して、年齢要件等を考慮されるというようなことはあるのでしょうか。その点をお伺いしたいと思います。

◎原保健福祉部長 医師の募集に当たりましては、北海道東京事務所や全国自治体病院協議会など、医師募集の担当者の助言をいただきながら進めておりますが、担当者の方のお話ですと、70歳ぐらいでも、元気な先生はたくさんいるとお聞きしております。

市といたしましては、応募のあった医師や看護師と直接面談を行い、健康状態の確認を初め、急病センターで働く意欲なども考慮しながら採用してまいりたいと考えておりまして、年齢条件等をつけることは、今、想定をしておりません。

◆北山委員 わかりました。

同じく、夜間診療ということで、ちょっと心配されますのは、いわゆる泥酔者といえますか、酔っ払いなんかが来られるということとか、診療対象外の方や処置に納得されないような方が居座ったり、クレームをつけたりするということも想定されるのかなと思います。そういった場合に、施設に警備員を配置するなど、ドクターが診療に専念できる環境が必要かと思うのですけれども、その辺の配慮というのは、きちんとされているのでしょうか。

◎原保健福祉部長 急病センターで勤務いたします医師及び看護師に、安心・安全な環境で勤務していただくために、休日夜間急病センター準備委員会において、泥酔者対応、クレーム対応などの中身についても協議を行っておりまして、警備業務を初めとしまして、受け付け補助、冬期間の除雪作業などを委託することを検討しているところであります。

市といたしましては、平成29年秋の開設に向けて、さまざまな形態で検討を行って、市民の御理解をいただきながら準備作業を進めてまいりたいと考えております。

以上であります。

◆北山委員 わかりました。

平成29年秋の開設まで、あと2年弱あるわけですけれども、せっかく御縁があって千歳に来ていただいたドクターが、すぐにおやめになってしまうなんていうことがないように、環境面、待遇面を含めて充実を図っていただきまして、また、同時に、休日夜間急病センターの役割とか、意義を市民に周知徹底していただくことで、開設までの期間、しっかりと準備を進めていただければなというふうに考えております。

最後に、その点だけ、私のほうからお願いを申し上げて、質疑を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○落野委員長 ほかに御発言がなければ、これで質疑を終わります。